

第4回桑名市国際化推進検討委員会 会議概要

日時・場所	平成31年2月14日(木) 13:30~16:00 桑名市役所本庁舎 3階第2会議室
出席者	委員:5名(うち1名早退) 市(事務局含む):11名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長挨拶 3. 事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 桑名市の英語教育 (2) 教育旅行の受け入れについて (3) 多文化共生事業について (4) ポストジュニアサミット事業について (5) 国際観光まちづくり推進事業 4. その他 5. 閉会
	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年で桑名市の外国人登録者数は増加傾向にあるが、入国管理法の改正により、今後、ますます外国人住民が増えると考えられる。 →さまざまな国籍でさまざまな言語の方たちが桑名市で生活をされるにあたり、どのようにサポートしていくのか等、多文化共生という課題に取り組んでいく必要がある。 ・英語コンテストの中学生の参加率について、中学生は部活動やテストなどもあり、参加が難しいという問題があった。コンテストまでの練習日も含めて、中学校にも協力をしてもらい連携をはかりながら進めていくことが大切だと思う。 ・英語コンテストにおいて、誰かが直したセリフを一生懸命暗記するのではなく、笑いをとったり、英語を楽しんだり、伝えたいことが伝えられたと思う。その結果、子どもたちの自信にもつながったし、英語だけじゃなく、やっぱり目標をもって取り組めば次につながるということが理解できたと思うのでよかった。 ・長島リゾートのような楽しい場所で英語コンテストを開催してみると、子どもたちや周りの雰囲気もまた違ったものになっていいのではないかな。 ・英語コンテストを経験した子どもたちが、次の年はスタッフとして参加するというのはどうか。官主導で環境整備を行って、何年

か後には自主的活動になっていくぐらいの感覚でできるとおもしろい。

- 「英語教育」というと、「教育」という言葉がついた時点でそれに関わる人たちみんなが身構えてしまうのではないか。英語は学ぶものではなく慣れるものであり、手段であって目的ではないという意識をもつことが大切。

- 外国語に限らず、何かを学ぶ上で、最後の到達点のおもしろさを見せるということが大切。最初から到達点の最後を見せて、学ぶことで楽しめるということを見せ続けると、子どもたちはその中で自分から伸びるかもしれない。

→例えば、グローバル社会で通用するコミュニケーション能力を付けることを目標の到達点に設定するのであれば、小学生だからと子ども扱いするのではなく海外でバリバリ活躍している大人の姿などを見せると、子どもたちも学ぶことの意義を感じやすいと思う。

- ホームステイの受入れは、子どもたちにとっても自らコミュニケーションを取ることで学ぶことのできるいい機会だと思うが、受け入れる親は少し不安感があって、受入れしてみようとなるまでにハードルがあると思う。

→ホームステイ受入れの整備を行う際に、親御さんに‘ハードルが高くない’ということを知りやすく伝えることができれば、受け入れてくれる家庭も増えるのではないか。

- 教育旅行について、日本の他自治体でも受入れに力を入れているところは多く、相手国側からすると「日本に来てください」というオファーはたくさんある状態なので、こちらから相手国へ修学旅行等で訪問し、交流を図ることも必要だと思う。

- アンケートを取って、ホームステイの受入れ家庭を増やすことも大切だとは思いますが、実際に海外から教育旅行の受入れでホームステイを行うことが少ないのであれば、ホームステイじゃない別の形で交流できるようなことを考えていくことも大切だと思う。

→例えば、公立小学校や中学校の訪問の機会を充実させるなど。

- 生徒たちが実際に海外に行って交流するというのが難しいのであれば、例えば、先生たちが夏休み期間に研修旅行のような形で海外に行き、むこうの小学校や中学校を見に行き、実際にコミュニケーションをとってくるというだけでも次につながってくると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイの受入れについて、視点を変えて、子どもたちを相互に受け入れるような地域内でのホームステイをやってみるのもいいかもしれない。 →桑名市に住んでいる外国籍の子どもたちが日本の違う家庭でホームステイをする。その後、その外国籍の子どもの家に日本の子どもがホームステイをする。海外に行かなくても、言葉や文化を学べるし、多文化共生の取組みとしてもいいのではないか。 ・行政が先入観を捨てて考えていくことが重要となってくる。 ・私たち日本人は、‘こうじゃなきゃいけない’と思うことに特にとらわれてしまう傾向があるが、国際化ということを考える時に、違いを楽しむとか、ひいてはちょっとトラブルを楽しむぐらいの感覚で、文化が違うのだから違いやトラブルは当たり前で、その中でどう対応していくかということがわかって行動できれば、それが本当の国際化だと思う。 →例えば、ホームステイの受入れにおける、食事の件だとアレルギーや宗教上食べられないもの等は押えないといけないと思うが、そういった違いが相互理解を生み、本来の意味の受入れのときの国際化につながると思う。肩の力を抜いて楽しむことが大切。 ・今後、入管法の関係で外国人住民が増えることを考えると、そういった多国籍の方たちが地域の中に入ってきたときはどうすればいいのかという違った意味でのサポートも考えていかななくてはいけない。 ・高校生が自分たちは桑名でこういうことを楽しんでいるということも含めて、高校生目線で桑名をプロモーションするものがどんどん出てきたらおもしろい取組だなと思う。 ・外国人観光客を増やしたいという自治体も多いと思うが、何のために増やすのかといった目的をじっくり考えていかないと、ただ単に増えるだけはいけない。外国人観光客の増加によって、桑名市在住の方々にとっていいことがあるとか、さらに桑名市が好きになるといったことに繋がらないといけないと思う。 ・何か事業を行う際は、何を目指してやっているのかということや、市役所の中でも話し合いをして、軸が常にぶれないように意識をもつことが大切。
担当課	市長公室 ブランド推進課